・西野勇人,「家族内の高齢者ケアと公的サービスの利用パターン」

（斉藤　知洋　記）

第18回社会保障国際論壇（中国・広州）

2024年９月７日（土）～８日（日）に，第18回社会保障国際論壇（The 18th International Conference on Social Security）が中国・広州市の中山大学にて開催された．今回のテーマは「社会保障と社会経済の持続可能な発展」であった．この論壇（フォーラム）は，2004年まで日本と中国の研究者の間で行われた研究交流の議論，検討などを源とする．こうした議論・準備などを経て，第１回目の論壇は2005年に日本社会政策学会国際委員会，韓国中央大学などの協力により中国の北京で行われた．以後，日本，中国，韓国の研究者が毎年持ち回りで開催されており，今回は中国での開催であった．この論壇は日本・中国・韓国の研究者が最新の研究について，会場の同時通訳を通じそれぞれの母語で発表できるという特徴がある．

今回は基調講演のほか，テーマ別セッションとして「医療保障」,「年金」,「介護」,「社会福祉と社会サービス」,「貧困と社会扶助」,「経済発展と社会保障」,「社会発展と社会保障」,「アジア・ヨーロッパ対話会（英語）」,「若手フォーラム（英語）」のセッションが設けられ，研究発表や議論が活発に行われた．大会には上記３か国を中心に200名近い参加者があり，特に香港からの参加者もあった．当研究所からは小島克久（副所長），別府志海（情報調査分析部第２室長）の２名が参加し，別府が「平均余命等価でみる高齢期：1970～2070年」（社会発展と社会保障セッション）のタイトルで報告を行った．

なお，次回は2025年８月に韓国で開催される予定である．　（別府志海　記）

ヘルプエイジ・アジア太平洋高齢者会議（インドネシア・バリ）

ヘルプエイジ・インターナショナルは，人口高齢化に関する国際的なNGOであり，アジア太平洋地域においてはおおむね２年に１度，国際会議を開催している．2018年にイラン・テヘランで開催された後，コロナ感染症の蔓延により中断されていたが，今年再開されることとなった．会議は「高齢化の再定義」をテーマに，インドネシア・バリのヌサドゥア・コンベンションセンターで2024年９月11日（水）～13日（金）に開催された．会議はインドネシア国家開発省（BAPPENAS）および国連人口基金（UNFPA）の共催を得て実施された．

筆者は２日目の公的年金に関するセッションのモデレーターを務めたが，前日の社会的年金のセッションと合わせ，近年アジア太平洋地域で，税金，もしくは掛金による年金制度が大きく広がっていることについての各国からの報告があり，その実態を把握するためにも，日本でいえば社会保障費用統計にあたるような統計が，OECD加盟国以外に広く必要であることを痛感した．３日目の少子高齢化に関するUNFPA専門家会合では，すでに高齢化のみならず，少子化がアジア太平洋地域の新たな課題となっていることが議論された．　（林　玲子　記）